

理科

1年

※DF 特太ゴシックは学力向上に関わる内容

※下線部は表現する能力の向上に関わる内容

課題分析	授業改善推進プラン
<p>1 知識・技能 小テストの結果から基礎的な知識が身に付いていることが見てとれるが、定期テストの結果を見ると、定着している生徒とそうではない生徒に二分されてしまっている。また、実験操作の意味を理解せずにただ言われたとおりに行っている意識の生徒が多い。</p> <p>2 思考・判断・表現 小学校での理科の知識の定着はよいが、それが必ずしも科学的思考に結び付いていないように見受けられる。</p> <p>3 主体的に学習に取り組む態度 自然事象について積極的に学ぼうという姿勢をもった生徒が多い。一方で、理科の授業内容に対する関心の低い生徒も少なからずいるというのが現状である。</p>	<p>1 知識・技能 <u>單元ごとの問題演習や小テストを積極的に活用し、生徒が復習する機会を多く設ける。</u>また、実験操作の中でポイントとなる操作について、なぜその操作を行うかを考えさせることで実験の技能向上につなげる。</p> <p>2 思考・判断・表現 <u>実験・観察の目的をきちんと理解させ、どのような考察を行うことが適切であるかを意識させる。</u>また、<u>実験・観察の際、考察の書き方を通し、思考力・表現力を向上させる。</u></p> <p>3 主体的に学習に取り組む態度 実験・観察を多く取り入れることで視覚的に学ぶ機会を多く設ける。また、日常生活と関連付けた導入を行うことで、生徒自身が私たちの生活と理科の関連性を見出し、授業内容に関心をもつことができるよう工夫を行う。</p>